

発達障害のある幼児・小学生の育ちを 地域で支援するための 障害理解活動の推進



筑波大学 医学医療系

徳田 克己

子ども支援研究所

大越 和美

活動のねらいは、神栖市を、発達障害傾向のある子どもが困らないで生活できる地域にすること

そのためには、保育者・教育者支援、保護者支援、地域の関係者支援が必要



× 全体の底上げを狙ったが、
○ キーパーソンの育成に方針を変更した

気になる子どもはたくさんいる

- ・小学校1年生では10人に一人、6年生で16人に一名の割合

自閉症、アスペルガー障害、
ADHD(衝動型、不注意型)、学習障害
大きくなるにしたがって割合は減っていく



- ・どの園にもいる。どの学校にもいる。どの職場にもいる。
保育者にも、学者にも、医者にも、保護者にもいる。

- ・**怖い二次障害**→不登校、引きこもり、うつ
自閉症スペクトラムの人の寿命は
そうでない人よりも18年短いという
研究が発表されている。

二次障害が
ひきこもりや
不登校を
生むケース



気になる子どもを地域で支援するためには

○「保護者、保育者・教師、市民が勉強して、**知識と技術**を身につける。」

医師、看護師、警察官、公務員、店員さんも。

それを支援するのが専門家の仕事

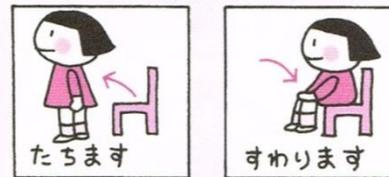


発達障害のある子どもの支援の 基本中の基本

- はっきり、短く、具体的に
- 指示は、その子が主語になるように
- 視覚支援 絵カード
- 指示は個別に

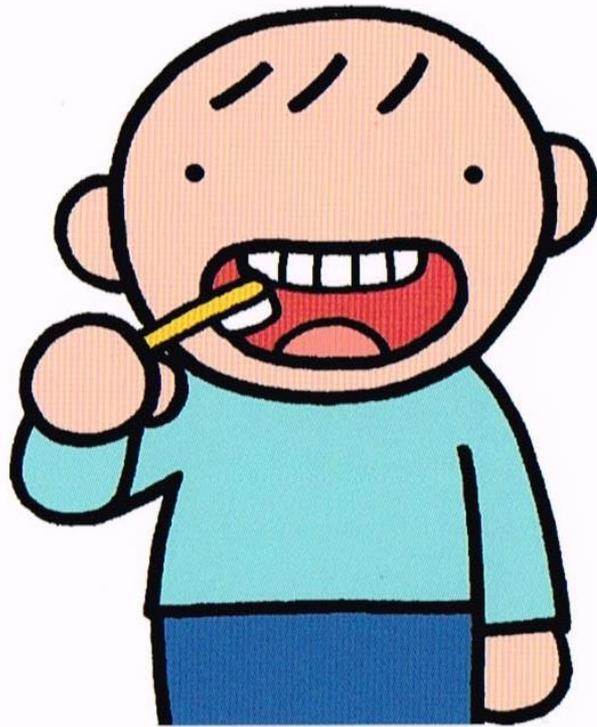


絵カードの一例





2011/01/24



はみがき

視覚支援の方法の例



どこに何を
しまうかを
図示する

今回の事業で実施した活動

- 研修会 6回 参加者約300名
- 個別相談会（神栖） 6回 80件
- 個別相談会（筑波大） 6回 15件
- 巡回訪問・指導 延べ26園・校
- ワークショップ 1回 参加者18名
- ケース検討会（筑波大） 35回

研修会

- 具体的な対応がわかる気になる子の**保育**
- 心の強い子どもを育てる**子育て**の秘訣
- 気になる子どもの**偏食**への対応
- **絵カード**の具体的な活用方法
- 発達障害傾向のある人への**対応**
- 気になる子どもの**保護者を支援**する具体的な方法





巡回訪問・指導

- ・保育者が対応に困っている子どもの状態を私たちが観察し、具体的に保育の中でできる援助方法を保育者に提案した。
- ・約7割の保育者から、子どもの状態が改善したとの報告があった。

個別相談

- 保育者や教師から、子どもの問題を相談してもらい、具体的に解決の方向を提案した。
園・所・学校単位で。
- 自分の課題の解決に直接、役に立つ。悩みながら保育・教育をすることが少なくなった。



神栖市における今後の課題

- 発達障害傾向のある子どもが在籍している保育所、幼稚園、放課後児童クラブにおける巡回指導・相談を強化する。
- 発達障害傾向のある子どもを養育している保護者、担当している保育者・教員・指導員に対する具体的なテーマに基づいた研修会、相談会を継続する。
- 発達障害傾向のある人が地域の中で「困らないで」生活するための住民への障害理解活動を促進する。



END